



<イベント案内>

■KEY-s 学習会 日本軍「慰安婦」問題について考える

○日時：2020年2月2日（日） 19:00～

○場所：KEY 大阪事務所

2006年に、KEYとして日本軍「慰安婦」問題を解決するキャンペーンを行い、ナムムの家で暮らすハルモニへメッセージを伝える取り組みを行いました。その当時の話を共有しつつ、慰安婦問題とは私たちにとってどういう問題か、今後どうしていくべきかについて話すことを中心にした学習会を開きます。

<活動報告>

●ちえっちやり読書会 チョ・ナムジュ『82年生まれ、キム・ジヨン』(12/21)

『82年生まれ、キム・ジヨン』は、2016年に韓国で出版され、100万部を超えるベストセラーとなっている話題の小説です。日本でも2018年12月に翻訳本が出され、海外作品のなかで売上ナンバー1が続いているそうです。女性の生きづらさをテーマにした、いわゆるフェミニズム小説で、多くの女性の共感を呼び、様々な国で読まれています。



この日はちえっちやりスタッフやKEYの会員、そしてフェイスブックやインスタグラムなどインターネットを通じて参加

された方々あわせて15名と、2名の赤ちゃんが参加してくれました。

ほぼ、みなさん作品を読んで来られていましたが、まずは簡単に、登場人物の関連図をもとに、あらすじを説明しました。

そして、ちえっちやりスタッフ(岡崎享子)より、いくつかの文学評論を参考にしながらプレゼンテーションを行いました。とくに、主人公が憑依型の精神疾患を発症し、そのライフヒストリーを精神科医がたどっていくという形で物語が展開されるという設定に注目し、「狂気とは何か」をテーマに取り上げました。「狂気の女」というのは実は古くから文学や社会学の分野でも論じられており、家父長制という男性中心の枠組みの中で作られてきた言葉が支配する世界において、女性は、ある意味では「狂気」という形で自己表現をしてきた主体である、と積極的に言うことができるのではないか、という問題提起で、掘り下げて考える機会となりました。

休憩をはさんだ後は、同じくちえっちやりスタッフの金和子より、「私とキムジヨン」ということで妊娠や育児を体験したことで重なる思いをお話させて頂き、参加者みなさんそれぞれにも、感想やご自身の体験を語って頂きました。この小説を読んだことで、それまで言葉には出来ていなかった感情を自覚できるようになったと話された方や、一昔前に



体験した性差別がまだ現代も残っていることを知り、第二のキムジヨンが生まれのないような社会にしたいといった声、韓国のフェミニ



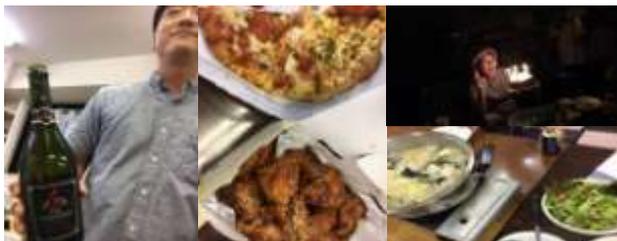
ズムの高まりについての反応など、たくさんのお話で盛り上がりました。

最後に、本の表紙のイラストをプリントしたものに、

それぞれ自分の思いやメッセージを添えてもらいました。

●忘年会(12/17)

普段、KEYの活動にあまり参加できていないメンバーも多く集まり盛大に行われました。



この日は年末らしくの塩ちゃんこと水炊きの2種類の鍋を準備しました。それ以外にも久しぶりに参加してくれるメンバーのことも思って、サンキューチキンで注文したチキン、ピザも頼んだり、色々なものを堪能しました。

これまた年末らしく、一人ひとりが、参加者みんなに向かって、今年1年を振り返って挨拶してもらいました。この日参加したメンバーはおおむねいい年だったと振り返っていたのは良かったです。また、クリスマス直前ということでプレゼント交換もして、色々充実した忘年会となりました！！



今年も宜しくお願いします～～